

戸ノロぜきは、人々のくらしをどのように変えたのでしょうか。

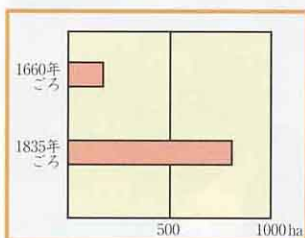
① 戸ノロぜきができてからふえた家の数  
 (「会津の堰」より)

| 村名          | 1623年<br>より前 | 1809年 |
|-------------|--------------|-------|
| はったの<br>八田野 | 20           | 66    |
| うるし<br>漆沢   | 0            | 21    |
| どうか<br>稲荷原  | 0            | 15    |
| なま<br>生井    | 0            | 8     |
| かみな<br>上長原  | 0            | 25    |
| 計           | 20           | 135   |

(単位：けん)

② 戸ノロぜきと水田の分布  
 (戸ノロ堰土地改良区全図により)

③ 田の広がり方



## 戸ノロぜきと人々のくらしの<sup>へんか</sup>変化



「戸ノロぜきができて、人々のくらしはどのように変わったのかなあ。」

と春男君が言いました。



「水田がたくさんふえて、米もたくさんとれたと思うわ。」



「くらしやすくなって住む人もふえたのではないかなあ。」

そこで、先生は、左の表と下の地図を見せてくださいました。みんなは、調べてわかったことを話し合いました。



「家がふえただけでなく、新しい村もできたんだね。」



「戸ノロぜきの水は、会津若松市のほかの町や村の水田にも使われているのね。」

